

4 輸出に支えられ増加が続く鋳工業生産

本県の鋳工業生産は、米国経済の減速による輸出の後退、設備投資を始めとする国内需要の伸び悩みにより停滞した2001年から、02年に入ると海外景気が徐々に回復したことにより輸出が増加し、生産回復の動きがみられた。03年前半は、生産活動は概ね横ばいで推移したが、後半に回復基調となった。04年以降は03年後半からの回復の動きを受け、生産は緩やかな増加傾向を続けた。06年に入り、国内経済及び世界経済の回復、特に新興国などの経済拡大に伴う輸出増加にけん引され、生産は増加している。

(5年連続で上回った生産指数)

06年の鋳工業生産指数は113.7で前年比6.0%の上昇となり、5年連続して前年を上回った。愛知県鋳工業指数の業種分類に基づく業種別にみると、全20業種中、輸送機械工業、一般機械工業、情報通信機械工業など前年より4業種多い16業種で上昇し、食品工業、繊維工業など4業種で低下した(図表4-1)。

図表4-1 2006年の業種別生産指数(愛知県)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鋳工業	10000.0	113.7	6.0	6.0
鉄鋼業	609.0	119.2	1.0	0.068
非鉄金属工業	155.5	121.7	3.9	0.066
金属製品工業	297.4	99.5	0.7	0.019
一般機械工業	1283.6	120.9	6.5	0.883
電気機械工業	630.9	108.7	9.0	0.531
情報通信機械工業	355.8	140.5	14.1	0.577
輸送機械工業	3751.4	122.6	8.8	3.464
精密機械工業	31.0	79.9	2.3	0.005
窯業・土石製品工業	474.8	97.1	3.5	0.145
化学工業	298.9	119.3	1.5	0.050
石油・石炭製品工業	75.0	84.8	-8.1	-0.052
プラスチック製品工業	610.4	105.6	4.7	0.268
パルプ・紙・紙加工品工業	171.8	100.2	3.4	0.054
繊維工業	411.3	62.7	-3.4	-0.085
食料品工業	420.0	94.6	-5.7	-0.225
ゴム製品工業	195.0	128.1	6.4	0.140
家具工業	89.9	67.2	0.6	0.003
木材・木製品工業	101.6	92.9	6.4	0.053
その他製品工業	33.6	104.8	1.4	0.004
鋳業	3.1	82.7	-2.5	-0.001

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:愛知県統計課「あいちの鋳工業」

(全国と本県の状況)

本県と全国における鋳工業生産に占める業種別のウェイトを見ると、本県では、輸送機械工業が37.5%、一般機械工業が12.8%と他の業種を抜き出てウェイトが高く、この2業種だけで全体の50%を超えており、機械工業の占める割合が極めて高い。逆に、図表4-1には表れないが、IT関連品目(愛知県鋳工業指数の業種分類における、電気機械工業のうち電子部品、情報通信機械工業のうち通信機械及び電子計算機、窯業・土石製品工業のうちファインセラミックスの機能材とする)の合計のウェイトは3.9%であり、IT産業の占める割合が非常に低いという特徴を備えている。

図表4-2 2006年の業種別生産指数(全国)

	ウェイト	指数	対前年増減率	寄与度
鋳工業	10000.0	106.2	4.8	4.8
鉄鋼業	440.3	109.9	2.2	0.100
非鉄金属工業	197.6	104.7	4.8	0.089
金属製品工業	567.7	82.6	-1.2	-0.053
一般機械工業	1270.5	114.2	6.0	0.778
電気機械工業	565.6	109.4	6.2	0.341
情報通信機械工業	483.1	87.6	4.5	0.173
電子部品・デバイス工業	1140.7	141.3	19.9	2.524
輸送機械工業	1229.2	127.3	5.5	0.764
精密機械工業	82.9	103.3	6.6	0.050
窯業・土石製品工業	432.6	80.0	-2.3	-0.077
化学工業	1174.0	100.9	-0.8	-0.088
石油・石炭製品工業	84.7	99.9	-1.7	-0.014
プラスチック製品工業	439.3	95.7	1.3	0.050
パルプ・紙・紙加工品工業	316.7	99.0	0.6	0.018
繊維工業	336.3	63.7	-3.8	-0.079
食料品・たばこ工業	782.0	93.1	-1.3	-0.088
ゴム製品工業	138.6	112.4	2.9	0.042
皮革製品工業	29.7	66.4	-6.5	-0.013
家具工業	75.8	79.4	-1.5	-0.009
木材・木製品工業	127.9	78.2	-0.3	-0.002
その他製品工業	68.7	85.2	18.7	0.087
鋳業	16.1	102.9	3.5	0.005

注:ウェイトは付加価値額ウェイト
資料:経済産業省「鋳工業指数年報」

一方、全国では、輸送機械工業が12.3%、一般機械工業が12.7%、合計で約25%となるため、この2業種が占めるウェイトは、本県での割合のちょうど二分の一となる。逆に、図表4-2には表れないが、IT関連品目(経済産業省「鋳工業指数」の業種分類における通信機械工業のうち通信機械及び電子計算機、電子部品・デバイス工業とする)の合計のウェイトは15.2%となり、本県での割合の4倍近くを占めている。

このように、本県と全国では業種別のウェイトに大きな差があることもあり、生産指数の動きにも異なる様相がみられることがある。

本県の実業生産指数の動きを四半期別にみると、01年10-12月期にボトムを脱した後、低下幅を縮小し、02年7-9月期にはプラスに転じた。03年7-9月期には輸出の鈍化によりやや低下したが、10-12月期以降、輸出の増加や設備投資の回復に伴い上昇傾向が顕著となった。04年10-12月期には相次ぐ台風の襲来・災害の発生などの天候要因もあって一時的に伸びが縮小したが、05年には輸送機械を中心とした好調な輸出にけん引され、前年同期比4%増前後で上昇傾向が持続し、年間でも前年比4.0%増の伸びを示した。

一方、全国では、04年後半からIT関連品目の輸出の伸びがアジアやアメリカ向けを中心に減速、特に05年7-9月期には前年同期比が0.2%減となるなど低調に推移し、05年は前年比1.1%増と伸びが鈍化した。

06年は世界経済の回復にけん引され、本県、全国ともに年間を通して好調を持続したが、輸送機械を中心に輸出が好調なことから、本県の実業生産指数は前年比6.0%増と、全国の同4.8%増を上回った(図表4-2、4-3、4-4、4-5)。

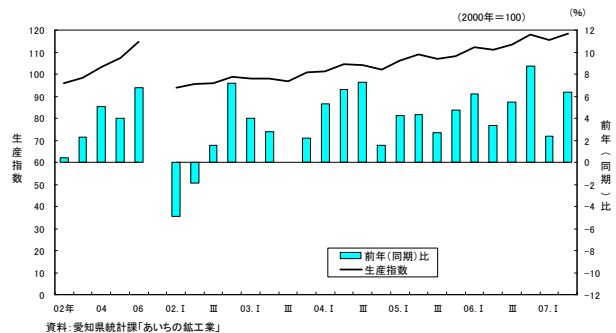
図表4-3 生産指数の推移

		(2000年=100) (%)			
		愛知県		全国	
年	期	指数	対前年(同期)増減率	指数	対前年(同期)増減率
2005	年間	107.3	4.0	101.3	1.1
	1-3	106.1	4.2	101.2	1.2
	4-6	108.9	4.3	101.1	0.3
	7-9	107.1	2.7	100.6	-0.2
	10-12	108.1	4.7	103.4	3.0
2006	年間	113.7	6.0	106.2	4.8
	1-3	112.3	6.2	103.8	3.0
	4-6	111.1	3.4	105.2	4.7
	7-9	113.6	5.4	106.6	5.6
	10-12	117.8	8.7	108.9	5.9
2007	年間	-	-	-	-
	1-3	115.6	2.4	107.5	3.1
	4-6	118.3	6.3	107.7	2.4

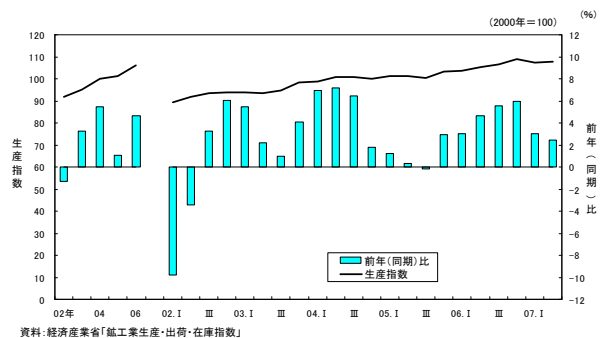
注1: 期別の指数は季節調整済指数

注2: 対前年同期増減率は原指数から算出

図表4-4 鉱工業生産指数の動き(愛知県)



図表4-5 鉱工業生産指数の動き(全国)



(ともに増加した投資財、消費財、生産財)

本県における06年の生産を財別にみると、投資財、消費財、生産財のすべてで前年比増となった。投資財のうち資本財は、国内及び海外企業の積極的な設備投資を反映して前年比6.2%増となり、4年連続の増加となった。また、建設財は、国内で公共工事の減少が続いている一方で住宅建設が好調なことや、米国や中国を始めとした海外で旺盛な建設需要があることから同0.9%増と3年ぶりにわずかながら増加に転じた。投資財全体では同5.0%増となり、4年連続の増加となった。

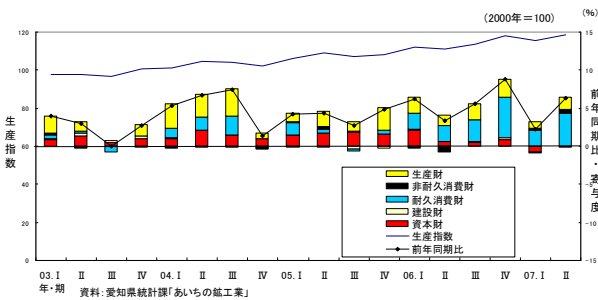
消費財のうち耐久消費財は、デジタル家電などの民生用電子機械が好調だったことや乗用車などの海外輸出が増加していることから同12.0%増と大幅な増加となり、3年連続の増加となったが、一方で、非耐久消費財は、衣料品などが不調だったことから前年の同2.2%増から06年は同3.4%減となった。消費財全体では同9.0%増となり、3年連続の増加となった。

生産財は生産の増加傾向が続いていることから、

02年以降5年連続の増加となる同4.4%増となった。

このように、06年は大企業を中心とした景気回復及び世界経済の拡大により、投資財、消費財のうち耐久消費財、生産財で前年比増の動きが続いた。07年に入ると、投資財、資本財が横ばいまたは緩やかな下落の動きをみせ始めているが、消費財、生産財が好調で、全体では生産増の動きが続いている(図表4-6)。

図表4-6 鉱工業生産 財別寄与度の推移

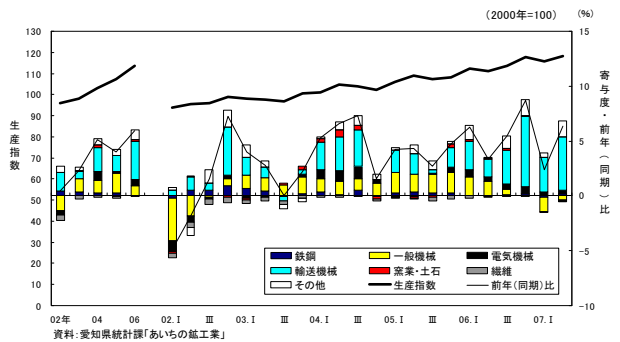


(主要業種の動向)

2006年は、前年に引き続き本県の主力産業である一般機械、輸送機械、電気機械などの伸びが続いた。

本県の鉱工業生産の中で際立ってウェイトの高い輸送機械は、輸出にけん引されて生産が大きく増加していることから、輸送機械の寄与度が全体の増減率に占める割合は増加する傾向にあり、06年は対前年増減率6.0%のうち、輸送機械は3.5%を占めるに至った。特に06年7-9月期以降、その寄与度は急拡大し、06年10-12月期では、対前年同期増減率8.7%のうち輸送機械の寄与度は6.4%、寄与率にして74.0%となっており、本県鉱工業生産の増加の大半が輸送機械によるものとなっている。07年に入ってから、一般機械などが前年同期比減に転じているが、輸送機械は好調で、本県鉱工業生産の増加に大きく寄与している(図表4-7)。

図表4-7 鉱工業生産 業種別寄与度の推移

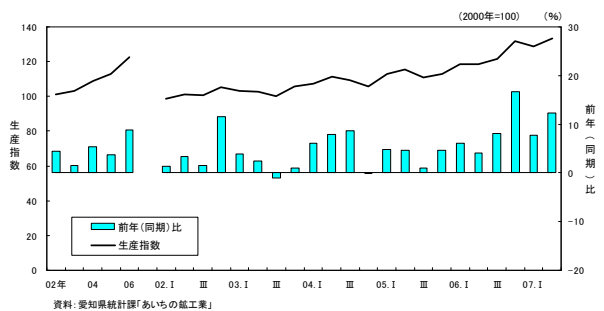


〈輸送機械工業〉

本県の基幹産業である輸送機械の2006年の生産指数は122.6で、前年比8.8%増となり、5年連続で上昇した。これはトラックが同17.6%減となったものの、乗用車が同13.1%増、自動車部品が同6.2%増となったことなどによる。

06年の1年間の生産指数の動きをみると、1-3月期、4-6月期は05年からの緩やかな上昇傾向が続いていたが、7-9月期に入るとより強い上昇傾向となり、07年1-3月期、4-6月期に至るまでこの傾向が続いている。

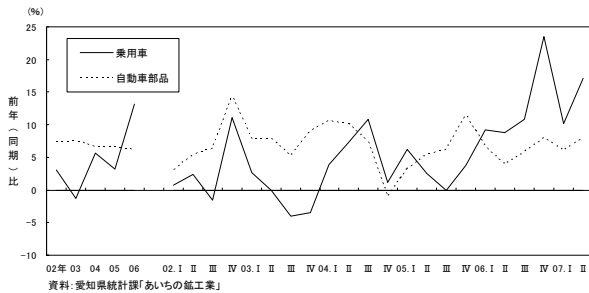
図表4-8 輸送機械工業の動向



輸送機械工業の中で58.6%のウェイトを占める乗用車の需要の動きをみると、01年以降05年までほぼ横ばいで推移していた国内の乗用車販売(軽乗用車を含む)は、06年には前年比2.7%減となり、05年の同0.4%減よりマイナス幅が拡大した。その一方で、名古屋税関管内の乗用車輸出が06年は同28.2%増と大幅に増加するなど海外需要が急増していることから、国内自動車メーカーの海外生産や海外現地企業の生産増加にもかかわらず、輸出の好調

が続いているため、国内生産は増加している。また、28.5%のウェイトを占める自動車部品も、国内・海外生産の増加にけん引され、生産増加が続いている(図表4-8、4-9)。

図表4-9 自動車・自動車部品の生産動向

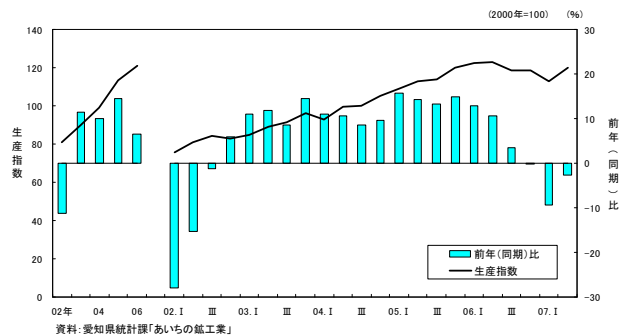


〈一般機械工業〉

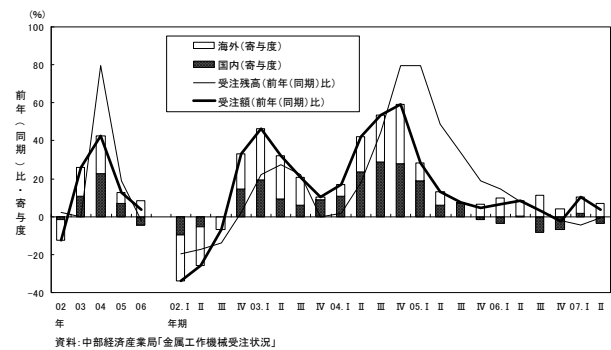
2006年の一般機械の生産指数は120.9で、前年比6.5%増となり、4年連続で上昇した。これは、03年以降増加が続いていた国内の設備投資に一服感が出てきた一方で、世界経済が引き続き拡大したため輸出が好調に推移し、国内の減少分を上回る需要増となったことから、産業用ロボットが05年の同87.3%増に引き続き06年も同29.0%増と大幅に増加したほか、特殊産業機械が同18.7%増となったことなどによる。

中部経済産業局の「金属工作機械受注状況」で中部地方の金属工作機械メーカー主要8社の受注状況を見ると、国内受注合計は4年ぶりに減少して前年比9.4%減となった。海外受注は、アジア向けが5年ぶりの減少となる同7.3%減となり、特に中国向けは05年の同12.1%減に続き06年も同3.9%減と設備投資の一服感が続いている。一方、北米向けは同19.3%増、EU向けは同40.1%増と好調であり、海外受注合計では同16.4%増となった。国内受注、海外受注を併せた全体では同3.7%増となったが、国内向け及びアジア向けの減少が影響して、04年の同42.8%増、05年の同12.5%増と比べ増加幅は縮小している(図表4-10、4-11)。

図表4-10 一般機械工業の動向



図表4-11 金属工作機械の受注動向

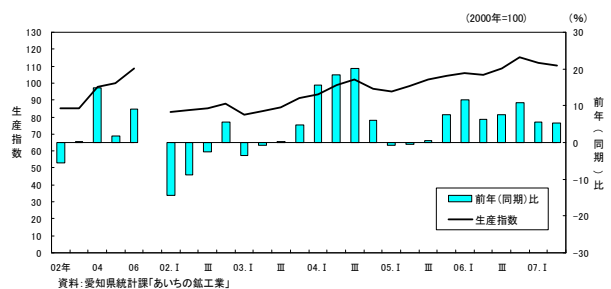


〈電気機械工業〉

2006年の電気機械工業の生産指数は108.7で前年比9.0%増となり、4年連続で上昇した。これは、開閉制御装置・機器が前年比11.3%増、内燃機関電装品が同8.7%増となったことなどによる。

なお、エアコン、電気洗濯機等の民生用電気機械は、海外生産への移行等により国内生産の減少が続いているため、06年は同3.7%減となり、00年の生産指数を100として、06年はちょうど二分の一の50.0なった(図表4-12)。

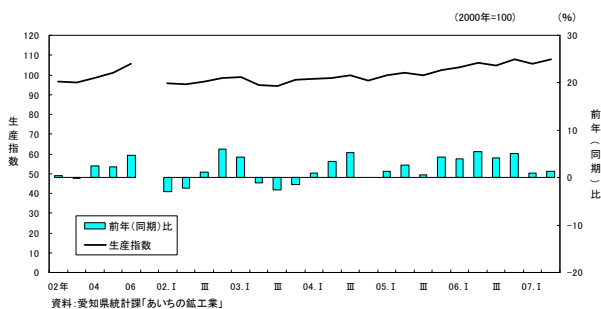
図表4-12 電気機械工業の動向



〈プラスチック製品工業〉

2006年のプラスチック製品工業の生産指数は105.6で、前年比4.7%増となり、3年連続で上昇した。これは、機械器具部品が同7.9%増となったことなどによる。本県におけるプラスチック製品工業は、輸送機械工業、一般機械工業、電気機械工業に次いで4番目にウェイトの高い業種であり、このうち機械器具部品が68.9%のウェイトを占めている。輸送機械や一般機械等の好調を受け、プラスチック製品工業は緩やかながら安定した増加傾向が続いている（図表4-13）。

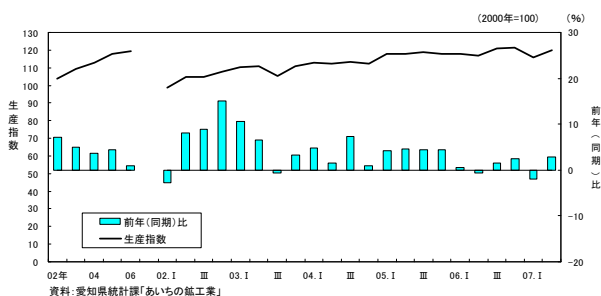
図表4-13 プラスチック製品工業の動向



〈鉄鋼業〉

2006年の鉄鋼業の生産指数は119.2で、前年比1.0%増となり、5年連続で上昇した。これは主に冷間仕上鋼材が同6.8%増、素製品（含、鋼半製品）が同1.1%増となったことなどによる。輸送機械向けや産業機械向けなどを中心に好調に推移し、02年から5年連続で増加しているが、06年に入ってから増勢が緩やかになっている（図表4-14）。

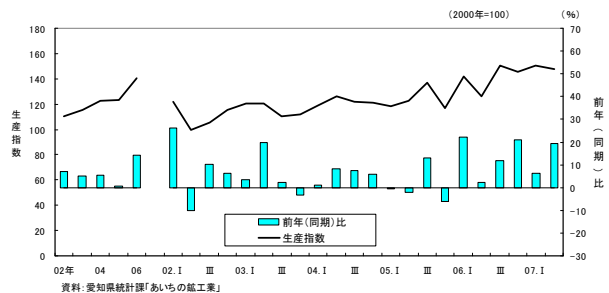
図表4-14 鉄鋼業の動向



〈情報通信機械工業〉

2006年の情報通信機械工業の生産指数は140.5で、前年比14.1%増となり、7年連続で上昇した。これは電子計算機が同12.8%増、民生用電子機械が同17.3%増となったことなどによる。00年に同18.5%増と急速に生産が拡大した情報通信機械工業は、パソコン等の需要の一巡により、01年以降増加幅は縮小していたが、06年に入りトリノオリンピックやサッカーのワールドカップが開催されたことなどから薄型テレビ等が大幅に伸びたことや、デジタルカメラの好調な販売に支えられ、生産は大幅な増加傾向が続いている（図表4-15）。

図表4-15 情報通信機械工業の動向



〈窯業・土石製品工業〉

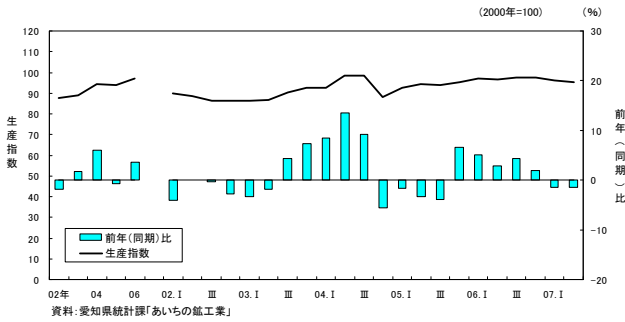
2006年の窯業・土石製品工業の生産指数は97.1で、前年比3.5%増となり、2年ぶりに上昇した。これは、ファインセラミックスが同13.7%増、ガラス・同製品が同0.5%増となったことなどによる。

ファインセラミックスは、ITバブル崩壊により01年に同27.9%の大幅減となった後、02年以降、主に自動車の生産回復に伴って増加した。04年は情報通信機器向けなども持ち直したことから、同33.3%増と大幅に増加し、05年はその反動で同0.9%減となった。06年入ると情報通信機械の好調を反映し、ウェイトの高い機能材が同21.1%の大幅増となったことから、ファインセラミックスの大幅増につながったが、07年に入り機能材が前年比減となったことから、ファインセラミックス全体でも前年比減に転じている。

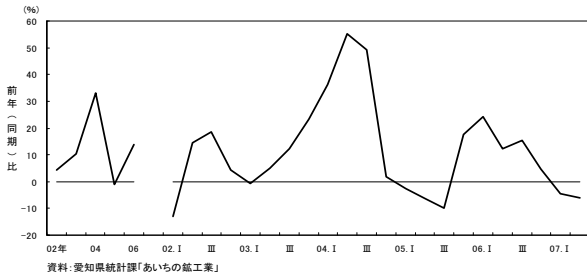
ファインセラミックス以外の品目では、ガラス・同製品がわずかに前年比増となったが、セメント製

品、陶磁器、瓦は前年比減であった。これらの品目は、安価な輸入製品との競合や公共工事の減少により減少傾向が続いている（図表4-16、4-17）。

図表4-16 窯業・土石製品工業の動向



図表4-17 ファインセラミックスの動き



〈繊維工業〉

2006年の繊維工業の生産指数は62.7で、前年比3.4%減となった。これは、主にウェイトの高い化学繊維と織物がそれぞれ同4.2%減、同3.3%減となったことなどによる。

繊維工業は、売り上げの停滞・減少、同業者間の競争激化、輸入製品との競争激化などのため、大幅な減少傾向が長期にわたって続いている（図表4-18）。

図表4-18 繊維工業の動向

